



学校だより

7月号

横浜市立桜台小学校

令和4年6月30日発行

熱中時代 ～「人情タコ焼き先生」から学ぶ～

校長 小宮 健

史上最短期間の梅雨が例年より 22 日も早く明けました。

連日の猛暑の中、子どもたちはマスクを外して距離を保ち、水の感触を確かめながら、3年ぶりの水泳学習に取り組んでいます。久しぶり（3年生以下は初めて）の学校のプールに歓喜の声を上げたいのを我慢しながら、集中して学びに臨んでいる姿は実に頼もしいです。

また、先日は密を回避するために各ご家庭 1 名という設定で土曜参観を実施しました。ご来校いただきありがとうございました。学習活動や掲示された成果物などから、日頃お子様が頑張っている様子を感じ取られたことと思います。授業の中程での入替えのご協力にも感謝いたします。

さて、これまで数多く存在してきた学園ドラマの中に、今から 40 年以上前に放映された小学校を舞台にした「熱中時代」（1978.10～1981.3）という高視聴率番組がありました。少年時代の私は、ブラウン管の前で若き日の水谷 豊氏（現在は「相棒」というドラマが有名）扮する新任教師の北野広大教諭が赴任先の小学校で起こるさまざまな出来事に体当たりで挑む姿に釘付けになりながら、時として涙が頬を伝わってきたことを覚えています。

そのシリーズの中で特に印象に残っている話がありました。何せ 40 年以上も前の番組なのでうろ覚えの記憶しか残っていませんでしたが、最近再び視聴する機会を得て、そのときの感動が蘇ってきました。題名が「人情タコ焼き先生」だったことも分かりました。

【あらすじ】

クラスのある女子が数日間続けて宿題をやってきませんでした。

そのことでクラスメイトからその子は責められてしまいます。間に入った担任の北野先生は本人から相談を持ち掛けられたので、日曜日に校門で待ち合わせて話を聴く約束をします。けれども、他の出来事に気を取られてしまい、その子との約束をついっかり忘れてしまうのです。

数時間後ハッと思い出した北野先生は謝るためにその子の家に行くと、父親が腕を骨折して、本業のたこ焼きを売る仕事がいざばらくできない状況であり、その子は怪我をした父親の代わりに、家事や家計のための内職を手伝うのに精一杯で宿題に手を付けることができなかったことを知りました。

月曜日、北野先生は学校の勤務が終わったあとに…何と！

父親の屋台を一人で引いて街に出ます。慣れない手つきでたこ焼きを作り、大声を張り上げて夢中で売りました。一方、その子はその間に家で宿題に励みました。思いのほかたこ焼きも売れて、手にした売り上げを父親に渡すことができたのです。

しかし、翌日このことがPTAの役員会で話題になり、北野先生は保護者が集まっている校長室へ呼び出されます…（話はつづく）



これはあくまでもドラマで、現在の学校教育の場とはあまりにもかけ離れ、行動がすべて適切であったとは言い難い部分があります。しかし、そこには紛れもなく「教師が心から子どもに寄り添い、子どもの背景を理解して、子どものために本気で何とかしたいという姿」が描かれました。当時の私は、その「熱い思い」に心を打たれたのだと思います。教育に携わる者となった今、改めて北野先生から「教育の原点」を学ばせていただきました。

あと3週間で夏休みとなります。保護者の皆様、地域の皆様、今月も本校の教育活動にご理解とご支援をよろしくお願いいたします。